

令和 8 年度富山県 SDGs 推進連絡協議会 議事要旨

日時：令和 8 年 5 月 12 日（火）10:00～11:30

場所：富山県民会館 611 号室

1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

(1) 富山県の SDGs の推進について 資料 1, 2

令和 7 年度の主な取組み、令和 8 年度取組み予定、富山県人材確保・活躍パッケージについて事務局から説明

(2) 各団体の現状報告及び意見交換 資料 3

委員から各団体での SDGs 推進に関する取組状況について説明

【富山県銀行協会】

- ・銀行協会及び傘下の銀行では SDGs に関する様々な取組みを行っており、その中から主なものをピックアップして紹介する。1 番目に金融教育、2 番目に SDGs に関する取引先との連携した取組み、3 番目に詐欺対策、4 番目に金融商品を活用した学校や施設等への寄付について。
- ・配布資料については、1 項目目が銀行協会としての取組み、2 項目と 3 項目目は傘下の各銀行の取組みについて 10 行あるうちの地方銀行 3 行に絞って記載している。
- ・まず銀行協会の取組みの現状と実績について。1 つ目に小学生を対象に実際に銀行に来ていただきお金について知ってもらう夏休み銀行探検隊という企画を実施している。毎回 30 人～50 人集まってもらい銀行とはどういうものか、社会とはどういうものか、経済とはどういうものかについて勉強していただいている。
- ・次に富山県警本部と連携した特殊詐欺の防止活動を実施している。この度 JA グループ、信用組合が情報共有の協定を県警と締結することによって、県内の全ての金融機関が詐欺対応について県警と連携できる状態となった。例えば各金融機関の取引先口座に怪しい振込等があった場合にすぐに県警に連絡して出動いただき詐欺を防止するというもので、この活動はかなり実績が挙げられている。
- ・また、富山県警察本部が毎月発行する「だまされんちゃ通信」を毎月各金融機関に配信している。先日のだまされんちゃ通信では実際詐欺に使われている電話番号から着信があったときにそれを拒否することができる警視庁アプリを紹介。特殊詐欺の多くは電話から始まっていることもあり、お客様への周知を徹底している。
- ・特殊詐欺の被害が過去最高を更新しており、最近では警察を装った連絡で「あなたが犯人になっている」と動揺させお金を振り込ませるといった被害が拡大していることから、こうした手口の県民への周知徹底が課題だと考えている。
- ・脱炭素アドバイザー事業や煌めく女性リーダー塾をはじめとしたカーボンニュートラルや女性活躍等に関する富山県の各施策の利活用についてもお客様へ周知を行っている。

- ・資料の2項目は各行のSDGs宣言の内容で、この基本理念のもと様々な活動を行っており、資料の3項目に具体的な実績を記載している。
- ・主なものは先述の通り金融教育で、小学校から大学まで色々なところに実施しているほか、私募債をはじめとした金融商品においては、利息を学校等へ寄付することで教材等の購入に充てていただいている。なお、SDGs 私募債は SDGs に取り組んでいるお客様は特別金利で利用いただける商品となっている。
- ・富山第一銀行の取組みとして記載しているオンラインカジノについては、その存在を周知するとともに、実際に振り込んでいる場合には取引制限する活動を行っている。
- ・最近の話題として、全行での取組みとなるが、中東情勢の緊迫化に伴って資金繰りの悪化や事業展開が難しくなっている取引先については、しっかり相談対応を行っている状況である。

【環境市民プラットフォームとやま】

- ・私たちの団体は SDGs を富山県からみなさんと協力し合って進めていくため 2018 年より「みんなで未来」をキャッチフレーズに活動しており、県の報告にもあった海ゴミの削減ワークショップ等でも一緒に活動している。
- ・2030 年の SDGs の達成期限まで残り 4 年となる中、県内でも石油製品が手に入りやすくなったり世界情勢の影響受けたりなどいろいろあるが、SDGs 達成を諦めず、色々な人たちと協力しながら経済だけではなく SDGs の理念である環境、社会の統合を進めたいと思っている。
- ・具体的には大きく 2 つの取組みを行っており、1 つ目は「誰一人取り残さない」ために様々な課題を社会に伝える活動、アドボカシーとって具体的にはなかなか届きにくい声を色々なかたちで社会に伝え、課題が目に見えるように、社会に見えるようにしている。例えば、富山シティエフエムの中で一番組を担当しており、そこで当事者や支援する方など色々な方をゲストに招きそうした課題を紹介している。また、全国の市民活動団体と連携して様々な地域の活動の紹介する冊子を作成しており、この中でも富山の活動事例として紹介している。
- ・2 つ目の活動として、環境を良くする活動を加速させていく、世界的には減少傾向にある生物多様性をプラスに転じていこうという活動について、ネイチャーポジティブと言われているが、富山県でも注力すべく活動している。具体的には東北大学などと協力しながら、黒部川流域のネイチャーポジティブを実現していくプロジェクトや、富山市と協力して農業をより環境共生型に変えてネイチャーポジティブを目指す取組みを行っている。
- ・次に意見、提案になるが、現在南砺市に大規模なデータセンターが作られる計画があり、税収や雇用面での経済的なメリットが期待されている。一方でこれが県の SDGs 推進にどう影響するかをしっかりと見ておく必要があるのではないかという視点での提案である。具体的には、このデータセンターは現在公表されているデータだと電力消費が 3.1GW と非常に消費量が大きく、当団体の概算によると、県全体で使う電力と比較するとおよそ 2 倍の電力を使用する施設となると想定される。また開発面積も非常に広大で、具体的には 100ha 強になるのではないかと想定される。参考までに富山空港が 91.6ha であることから、経済的にメリットがあるものの非常に大規模な開発のため、例えば電力使用が増えるということは当然それ相応の二酸化炭素 (CO²) も出るということである。既存の富山県のカーボンニュートラル戦略によれば、今のところ 30%以上の削減となっておりすごく順調かと思うが、これがどう影

響するののかという点や、富山県として生物多様性、ネイチャーポジティブを進めようとされている中、ここにどう影響するののかという点について考える必要があるのではないかと。データセンターは最新のテクノロジーであるため、世界的にも規制や法制度が追いついていない現状もあり、日本の環境アセスメントにおいても現状では対象外となっており、構造上環境面での対応が漏れやすい状況にあると思う。この規模になると一市町村だけの問題ではなく、県全体の問題、県民全体の関心事であり、特にカーボンニュートラルという点においてこれまで企業ではコストもかけて削減してきたところ、ここに乗せられるとなると影響も出てくるのではないかと。思う。

- ・提案として、県として積極的に情報を把握し、広く県民に情報開示したり、制度設計等をしていく必要があるのではないかと。ということで、法整備がまだ追いついていない中で今後 AI の進歩により県内でも南砺市に限らずデータセンターの設置が増えていくことも想定され、県独自でデータセンター設置のガイドラインを設けてはどうか。先行事例として3月に東京都が策定しており、実際これだけの規模になると不安になる住民というのはその地域の住民のみならず広い範囲に及ぶため、そういった方々の早期の住民対話の重要性や地域共生、環境配慮ということも整備されており、参考になるのではないかと。

【富山県女性財団】

- ・最初に質問だが、17のSDGsのゴールの5番目のジェンダー平等実現について富山県ではどのような取り組みをしているのか、資料では触れられていないため教えていただきたい。
- ・富山県女性財団ではサンフォルテを管理・運営しており、資料に記載している5つの事業方針に従って男女共同参画、女性活躍にかかる事業に取組み、SDGsのゴールの5番目の「ジェンダー平等を実現しよう」を推進している。特色ある事業としては男性向けの相談事業を行っている。情報提供事業としてはホームページでの発信と年3回広報誌「サンフォルテだより」を発行している。また、男女共同参画にかかる本を揃えた専門図書館の運営と調査研究を行っている。
- ・講演会や講習会、出前講座では、こころとからだといったテーマのセミナーをはじめ、男性対象、小中高生対象としたもの、女性リーダー塾など企業を対象としたものを行っている。
- ・人材育成では、男女共同参画推進や地域の民生委員等を対象とした講座も開設している。昨年度は予想以上に男性の参加が多かったセミナーもいくつかあった。また女性の就業支援として、働く女性のためのセミナーや初心者向けパソコンセミナー、DV被害者のための自立支援講座を実施している。
- ・毎年6月の男女共同参画週間にはサンフォルテフェスティバルを開催しており、今年は6月27日(土)を中心に基調講演、ワークショップ、展示、マルシェなどを開催する予定としている。SDGsのゴールの5番目のジェンダー平等だけでなく、それに絡んだほかのSDGsの項目と関連した事業を多くの県民のみなさまに活用いただくよう、地道に意識啓発に努めている。

【富山市】

- ・富山市では平成30年6月に国からSDGs未来都市に選定されて以降、これまでSDGsを知る、SDGsを理解する、SDGsを実践する、の3つの区分で様々な取組みを進めてきた。令和5年度からは、より理解を深める、実践する内容に重点を置き、特に中小企業や小・中学生、ユース世代向けの取組みについて拡大を図ってきている。

- ・令和7年度に実施した取組みとして、まず「SDGsを知る」では北日本新聞の朝刊や専用Webサイトを活用して富山市の取組みや市内の企業、団体などの取組み事例について紹介するとともに、富山市SDGsサポーター登録制度の周知を図った。
- ・「SDGsを理解する、実践する」の取組みについては、1つ目に令和6年度に作成した富山市版SDGs学習ゲームの学校現場での活用を図るため、市内の小中学校において教職員を対象としたモデル授業や高校・大学において特別授業を実施した。また、希望する学校や企業などに学習ゲームを貸し出すとともに、学習ゲームのファシリテーター養成講座を開催したほか、市職員による学習ゲームを活用した出前講座も行っている。
- ・2つ目に中小企業のSDGs推進を図るため、SDGs先進企業ミートアップツアーを開催している。令和7年度についてはNES株式会社様にご協力いただき、環境や防災面の企業の先進的な取組みをご紹介いただいた後、参加者同士が交流するワークショップを行った。このツアーには8社の企業に参加いただいている。
- ・3つ目にSDGsに関するイベントを集中的に行うSDGsウィークを1月31日～2月8日にかけて開催した。今年は市、サポーター企業合わせて19の事業を実施している。最終日の2月8日に開催したSDGs推進フォーラムでは、メインゲストに俳優の杉浦太陽さんを招き、子育てや家族などをテーマに、富山市のまちづくりを通して、SDGsが描く幸せな未来について会場の皆さんと一緒に考えた。また、令和8年度においては、多くの市民がSDGsを日常生活から身近に感じられるよう、SNSを活用した市民参加型のキャンペーンを秋頃に予定している。今後も多くの市民や企業・団体などと連携しながら、本市のSDGsの推進に努めていきたいと考えており、引き続き皆様方においてもご協力いただきたい。

【南砺市】

- ・南砺市では、循環型共生社会、次世代を担う人材育成、そして地域課題の解消の3つを基本方針としSDGs推進に向けて取り組んでいる。
- ・取組みの1つ目が桜ヶ池自然共生推進事業、かいぼりの実施についてで、今年度の新規事業としてエコビレッジ構想のモデル地区である桜ヶ池において市民参加型でのかいぼりを計画している。小中学校と連携した教育環境プログラムを合わせて実施することで、市民が自然と触れ合い地域への愛着と環境美化を深める機会を提供し、自然と共生する地域づくりを推進するため実施を予定しているところ。かいぼりは伝統的なため池の管理方法であり、事業を通じて桜ヶ池の水質改善、また、外来生物の駆除による生態系の維持回復及び生物多様性の保全、そして市民の自然環境保護への意識向上を図っていききたいと考えている。
- ・2つ目がエコビレッジ部活動事業、こちらは市内の中学生、高校生が地域課題の解決や地域資源の循環を意識した実践活動を行う際の費用の一部を市が支援するものである。次世代を担う高校生、そして中学生の自主的かつ積極的な行動を促進するもので、例えば伝統的な絹織物である「福野縞復興プロジェクト」として地元の高校生が福野縞を活用した座布団等を製作した。今年度も継続事業としてこうした取組みの推進し、今後も幅広く促進を図っていききたいと考えている。
- ・3つ目が地域課題解決型市民活動支援事業で、地域資源を活用して地域の活性化や課題解決に取り組む市民団体等に補助金を交付している。あわせて、中間支援組織と連携し、活動団体に寄り添った伴走支援を進め、市民活動の活性化と持続可能な地域づくりの促進を図りたいと考えている。令和7年度は、

地域課題解決型市民活動支援事業を 5 件、ガバメントクラウドファンディングを利用した支援事業は 1 件採択している。例えば、特定外来生物『オオキンケイギク』の駆除活動を推進する活動や、公園の再生事業、また集落に残る棚田を活用した地域活性化イベントなどの支援を実施したところである。

- ・最後が自然共生活動団体連携事業で、市内で活動している自然共生団体が、緩やかな関係性を構築しながら情報交換や課題を共有できるワークショップ等の交流機会を創出する事業を進めている。団体間の連携強化により持続可能な自然共生社会の実現を目指しており、昨年度は計 3 回交流の機会を設け、皆さんと課題共有を図ったところである。今年度も引き続きこうした自然共生団体との交流を進め、2027 年に開業を予定している「PLAY EARTH PARK NATURING FOREST」や「aremoa」とも連携しながら、SDGs の推進に取り組んでいきたい。

【氷見市】

- ・氷見市は令和 5 年 5 月に SDGs 未来都市に選定され令和 5 年から活動を進める予定であったが、令和 6 年 1 月の能登半島地震の影響で実際に動き始めたのは令和 6 年 9 月からとなっている。
- ・1 つ目に毎年 9 月にひみ SDGs ウィークを設けている。昨年だと関連イベントはまだまだ少ないが、期間内に 4 つの関連イベントを実施した。
- ・2 つ目がひみ SDGs 推進パートナー交流会で、ひみ SDGs ウィークの最終日に開催した。個人や企業、団体と一緒に SDGs を推進するパートナーを募集しており、登録時には 17 の目標のどういったことを達成したいかを記載してもらっている。そのパートナーから 17 団体 24 名に参加いただき交流会を開催した。同じ目標達成に向けてどんな悩みがあるのか共有したり、上手くいっている事例があれば発表したりしている。また、今後パートナー同士で連携することでどんな事がより効果的に進めることができるかも話し合った。資料の P36 には当日のプログラムと、ワークショップやグループごとに集まった話し合いの写真と集合写真を掲載している。
- ・3 つ目は昨年度初めて開催したもので、県の取組みにも大学生との連携があったが、氷見市では東京の実践女子大学と連携協定を結び SDGs 貢献型インターンシップを昨年からはじめ、今後毎年度行う予定としている。この取り組みは大学生が地域に入り課題解決へ向けて提案し実践するもので、昨年度は資料の P36 に記載のとおり文化、海、自然、中山間地域、環境というそれぞれのテーマに基づき活動し、最終日には提案を受けた。
- ・4 つ目には先述したとおりパートナー制度を設けており、令和 8 年 3 月時点で個人が 111 名、企業団体は 112 団体が登録している。今年度からは、活動やその成果が顕著なパートナーの表彰制度を考えており、先述した交流会の場等でそうした人を表彰していきたい。また、交流会での交流をきっかけに連携して取り組むこととなった場合、市としてこうした取組みを支援する「ひみ SDGs パートナー連携取組支援事業」を設けている。活動費もままならないという話も聞いており、こうした支援を通じてより SDGs を推進していきたいと考えている。

【県】

- ・事前にご準備いただいた資料に基づきご説明いただいたところ、環境市民プラットフォーム堺委員からはデータセンターに関するご意見・ご提言として先進事例をお話しいただいた。データセンターについては SDGs の 17 の目標、分野が様々ある中で環境面の視点もあれば、一方で AI・デジタルの視点で

は産業の推進に欠かせないものだという視点もあるなど、様々な動きがまだまだある状況であるため、貴重なご意見・ご提言として県庁内でも受け止め、南砺市さんとも連携を図りながら SDGs 全体の流れに沿って進めていければと思う。

- ・女性財団からいただいた、17 の SDGs のゴールの 5 番目「ジェンダー平等」の推進状況について、アプローチの一つとして女性活躍の観点で女性活躍企業の認定制度を令和 4 年度から行っている。認定企業数は資料 11 ページに記載のとおり現在 95 社あり、公共調達における加点措置や、企業誘致等についても優遇する制度を設けるなど、女性活躍企業ができるだけ活動しやすいように環境整備を行っている。
- ・昨年度には新たに女性の活躍促進官民連携会議を設立し、今年度新たに、企業のトップメッセージを浸透させていくような社風を改善するキャンペーンを実施していこうと考えている。
- ・その他、ジェンダーギャップ、アンコンシャスバイアス等の理解促進に関する特設サイトを設けており、企業の取組みや事業の紹介を行っている。資料には記載できていないが、アンコンシャスバイアス解消のため、アンコンシャスバイアス研究所の「認定トレーナー」資格を取得した県職員が出前講座を行い普及啓発にも取り組むなど、他にも様々な取組みを行っている

【富山県商工会連合会】

- ・SDGs に関する取組みとして、中小企業研修センターの貸会議室の運営を行っているが、車の利用者に対し公共交通の使用を促進するため富山地方鉄道さんに相談させていただき、割引券の発行を昨年度より始めている。実績はまだないが引き続き利用者へ周知していきたい。
- ・その他研修センターは全館 LED 照明となっており、人感センサーの設置もおこなっている。
- ・県下の 12 商工会においては人材確保の観点から働き方の見直しや従業員の処遇改善など、就業規則の改正の相談が多く寄せられるようになった。それに対し、社会保険労務士等の専門家を派遣して指導を行っている。
- ・昨今自然災害が頻発する中で事業者の BCP 作成支援を行っている。防災、減災に対する対策として市町村と共同で商工会がどのように支援するかという計画も作成しているところ。
- ・その他人材確保の観点で、商工会連合会では今年度の柱として、最近増えつつある富山県への移住者の方をターゲットとした企業への人材マッチングや創業支援、事業承継支援について議論を進めている。

【富山県中小企業団体中央会】

- ・本会の SDGs に関する取組状況について、目標の 3 に掲げている「全ての人に健康と福祉を」の観点では、職員の健康診断の徹底やとやま健康企業宣言 step 1 の認定を受けるなど、職員の健康と福祉の向上に尽力している。
- ・目標 4 の「質の高い教育」については、職員の資質向上を図るという観点から、年間最低 2 回程度の外部機関研修等を通じてリスキリングに取り組んでいる。
- ・目標 5 のジェンダー平等については、現在女性職員比率が 25%と残念ながら平等とは言えない状況で、女性管理職比率についても 8%と低い状況であるため、引き上げに向けた取組みを進めていきたい。
- ・目標 9 の「産業と技術革新」については、国から認定された経営革新等支援機関として中小企業の経営革新に係る支援を行っている。

- ・ものづくり補助金や省力化投資補助金の富山県における地域事務局として生産性向上に関する支援も行っている。

【富山経済同友会】

- ・2025年度の経済同友会の主なSDGsの活動として、持続可能な企業経営でデジタル推進委員会、企業経営委員会、代表幹事イニシアティブ委員会（別名日本海サミット委員会）の各委員会が「企業の持続的発展」、「環境との調和」を重要課題に、デジタル推進委員会は「DX」や「AI」、そして「GXから企業の未来を考える」、「脱炭素をチャンスに変える」といった企業経営と環境との調和を主題に取り組みを行った。
- ・教育を考える委員会は持続可能な人づくりを重要課題に、「教育は大人の意識改革である」という内容の講演会の開催、人財育成・活躍委員会は多様な人材、次世代を担う人材育成として、「差がつき始めた中小企業の人事戦略」、「静かな変化、私たちが大変だと言っている間に一般社会が進めている採用育成定着の新たな動き」という内容で講演会を開催し、多様な人財の活躍、次世代を担う人財育成を目標に掲げ委員会活動を行っている。
- ・地域創生、文化芸術、観光戦略の委員会では、持続可能な地域づくりとして地域とのワークショップ開催のほか、富山の文化を魅せる文化とするため、まちの創生、地域の活性化と魅力向上について県内視察や福岡などの県外視察により他の地方のいいところをいかに富山に取り入れるか考えるなど、地域の活性化や魅力向上に取り組んでいる。
- ・パートナーシップの観点で、教育を考える委員会は関西経済同友会や富山県との意見交換会、また、5経済同友会担当委員会との勉強会等を踏まえ、地域での連携やパートナーシップの確立を目標に活動している。
- ・交流観光総務企画委員会では長崎を視察し、長崎経済同友会との交流を踏まえ地域同士の連携を深めていきながら、大都市一辺倒ではなく、地方都市が生き残るにはどうしたらいいのかを考えながら活動している。

【富山県森林組合連合会】

- ・森林組合では、森林作業自体がSDGsの15番の目標「陸の豊かさを守ろう」に合致することから連合会として統一した取り組みまでは行っていないが、県下4森林組合では市町村等と連携して地方植樹祭等に一生懸命取り組んでいる。
- ・富山県のスギ人工林については、人間の年齢換算でおおよそ45歳以上の森林が7割以上を占めており花粉症の原因ともなるため、森林林業計画で目標として主伐による森林循環の加速化と持続的な森づくりを掲げている。森林組合としても森を育てることだけでなく主伐を積極的に推進していくこととしている。富山県においても資料のP19に記載のとおり優良無花粉スギ「立山 森の輝き」普及推進事業を新設し、主伐した山が荒れないよう無花粉スギ「立山 森の輝き」を植樹しており、その事業に積極的に協力している。

【富山県漁業協同組合連合会】

- ・持続的な開発については協同組合の世界では国際共同組合連盟が約30年前から共同基本原則の1つと

して「地域社会へのかかわり」を掲げており、着実に取組みを進めてきたところ。国連でSDGsとして17の目標が定められたが、我々の取組自体はそれほど変わっておらず、目標の14番目の「海の豊かさを守ろう」をターゲットとしている。

- ・海洋汚染の防止に取り組んでおり、各漁協では海岸清掃や漁港清掃等を定期的に行っているほか、生協連とタイアップした海岸クリーン作戦も年に1回行うなど、こうした活動を何十年にわたり定期的に取り組んでいる。
- ・海洋沿岸生態系の保護として県東海域では昆布をはじめとした藻場の造成に、脱炭素に繋がる、そして収入にも繋がる活動として取り組んでいる。
- ・現在計画段階だが、県東部海域で鉄鋼スラグを海域に沈めることで鉄分を補給するという取組みについて、説明会を開催するなど、実現に向けて話が進んでいる。
- ・水産資源の持続可能な管理という点では近年国策としてのTACという漁獲可能量制度が進められており、本県ではブリ、スルメイカ、ベニズワイ、クロマグロ等を中心として最近TAC化が進められているなど、資源管理の取組みが行われている。

【富山県内水面漁業協同組合連合会】

- ・持続可能な水産資源の利用、生物多様性の保全の観点で各河川での鮎の養殖・放流をおこなっている。
- ・環境面ではカワウ対策等も行っており、陸地の生物多様性の保全の観点でSDGsに資する取組みである。

【日本青年会議所富山ブロック協議会】

- ・日本青年会議所は全国規模の組織であり、会員数は25,000人ほど、富山ブロックでは300人ほど活動している。今年度はカーボンニュートラルを日本で一番推進する団体になることを目指しており、富山県内でも推進に向けた活動を行っている。
- ・具体的には、メンバー・家族向けにまずは生活の簡単などころからCO₂削減に向けた見直しを図るため、CO₂をどれだけ削減できたか数値化する活動を進めている。
- ・小学校向けにカーボンニュートラルという言葉を知ってもらう、身近に取り組めることを理解してもらうためのカーボンニュートラルボードゲームというものがあり、それを活用して小学校での活動も行っている。

【富山県婦人会】

- ・富山県婦人会は生涯教育団体として長く活動してきており、SDGsの理念とも重なる部分が多い。昨年度には女性の積極的な参画、リーダーシップ発揮の機運醸成の観点で、高岡市や入善町では女性が積極的に参加し、防災活動や地域住民と連携した学習会が実施された。
- ・先ほど女性財団から紹介もあったサンフォルテフェスティバルでは、能登半島地震発生の際の避難所での活動についての発表を行い、関心を高める活動を実施予定としている。
- ・質の高い教育といった点では、高岡市、砺波市、滑川市、入善町では三世代での交流活動が活発であり、講演会だけではなく親子活動等にもたくさん取り組まれている。
- ・環境保全の観点では、マイバッグの持参運動だけでなく、食品ロスの削減について砺波地区で子供たちを対象にした学習会や現地活動を進めており、市町村での活動を中心に県全体で取りまとめながら進

めている。

【富山県消費者協会】

- ・富山県消費者協会ではSDGsに関連し、人や社会、地域、環境に配慮した消費であるエシカル消費の普及啓発を中心に活動している。その一環として昨年度は新規事業として、資料の P10 に記載のあるアクティブラーニング型消費者教育推進事業に取り組んだ。これは学校や地域等で子どもたちがSDGsにおける環境問題について学んだうえで消費生活等での課題の解決に主体的・能動的に取り組んでもらう事業で、県からの委託事業として実施した。
- ・昨年度は小・中学校1校ずつと高校2校、大学2校、消費者生活研究グループ3団体の9つの学校・団体で実施した。このうち、朝日町にある消費生活研究グループが企画した取組みでは、朝日町のヒスイ海岸で子どもたちに海岸に漂着した流木やプラスチックごみなどの海岸清掃を行ってもらい、子どもたちがそこで拾った流木などの海岸ごみを素材にして背丈を超えるような大きな恐竜を作り、楽しみながら環境問題について学ぶといった活動が行われた。このアクティブラーニング型消費者教育推進事業については今年度も引き続き実施することとしている。

【富山県社会福祉協議会】

- ・社会福祉協議会では理念として「ともに生き、ともに支えあう、地域共生社会の実現」を掲げており、これはSDGsの理念の「誰一人取り残さない社会の実現」と多くの共通点がある。当協議会では事業の推進計画として強化発展計画というのがあり、その中に4つの推進項目がある。項目それぞれにSDGsの17の目標のうち関連のあるものを設定し、それぞれの目標を達成するべく様々な取組みを推進している。
- ・この計画は今年度で終了するため、今年度は来年度からの次期計画の策定作業を行うこととしており、引き続きSDGsの対応を踏まえた計画とする予定である。

【県】

- ・SDGsの17の目標は分野が大変多岐にわたるなか、本日は各委員より様々な分野についてご報告いただき、ご意見・ご提言もいただいた。
- ・ご報告をお伺いし、SDGs達成に向けて各団体でそれぞれ取り組んでいただいているところだが、例えばジェンダー平等、環境問題や産業、そして各地域の取組みについても、各団体に関連するものであると改めて認識させられた。
- ・全体を通して何かご意見・ご感想等があれば伺いたい。

【環境市民プラットフォームとやま】

- ・県の資料に難病支援等の記載を追加いただいた。昨年この場で提案させていただいたもので、対応いただき感謝申し上げます。追加いただいたことで県が実施している多岐にわたるSDGsに係る取組みがより見えてきたように思う。
- ・ラジオ番組の中で小児がんのお子さんを持つお母さんたちのお話を聞く機会があった。番組内では5年前と今でどれくらい変わったかについて主観的な視点で5段階評価していただいております、様々な課題

において多くの方が少ないながらも進んでいるという評価をされる中、その小児がんのお子さんを持つお母さんも、5年前は正直0だったというところから0.5とか1くらいにはなったとお答えいただいた。これは各団体の皆様がそれぞれの分野でご尽力いただいていることが県民一人ひとりに反映されているということではないかと感じている。

- もう1点、5月30日に富山大学でアースデイとやまというイベントを開催する。これは毎年4月22日が世界アースデイであり、年に1回地球のこと、環境のことを考えよう、アクションしようとして1970年から続いているもので、富山でも1991年から35年にわたってこの活動が行われており、当団体もこのアースデイ富山から派生してできた団体である。富山大学での開催となり、ぜひご参加いただきたい。映画を無料で見ることができ、午前中の「君の名は。」という映画では、脱炭素の取組みを農業や水産業でも進めていくためリジェネラティブという環境の再生に関する海外の大規模な事例が紹介されており色々な分野の方にも参考になるのではないかと思う。

【県】

- 委員の皆様から貴重な意見をいただき改めて感謝申し上げます。本日共有いただいた各分野、地域での取組み、ご意見については県の政策推進の参考にさせていただくほか、各団体においてもSDGs推進の一助としていただきたい。
- 委員及びオブザーバーの皆様には引き続きご支援・ご協力いただき、SDGsの達成に向けて一緒に活動に取り組んでいきたい。